TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

エフェソの信徒への手紙 - 恵みのスペクトル　これから起こることに目を向けて

エフェソの信徒への手紙 3 章 14～21 節

2025 年11 月 22 日 & 23 日
ジェシー　セザリオ　牧師

一緒に礼拝してくださっている皆さん、TBC ウェスト トウキョウ、TBC 三郷、スヴァ・バプテスト教会、トンガ・バプテスト教会の皆さん、こんにちは。父なる神と主イエス・キリストの恵みと平安が皆さんと共にありますように。

本日の聖書箇所はエフェソの信徒への手紙 3 章 14 節 から 21 節です。

祈りましょう

はじめに
今日の箇所でやっとパウロが何を祈りたかったのかがみえてきます。パウロは 1 節でまさに祈ろうとしていたところでしたが、すぐに自らをさえぎり、キリスト・イエスにおいて新しい人が作り出され、今や私たち異邦人も神の民とされているという秘儀を明らかにすることにしたのでした。

またパウロは、恵みの福音を通してキリストにあって私たちが与えられているものの意味、そして今、新しい人としてそれが私達をどこへ導くのかを教えています。覚えていますか？

それは私達を、キリスト以外の誰も入ったり、近づいたりすることが出来なかった場所に導きます。神の御座です。今、キリストにあって、私達の祈りは主のもとに届きます。

パウロは次のように祈り始めます。この祈りは力強く、深く、パウロの最も有名な祈りの一つです。多くの人がこの祈りを愛していると言い、よく引用され、そのまま祈れるよう暗記さえしていると言います。

その祈りはわずか 90 語ほどです。私達は一分間に 100～125 語を話すので、この深い祈りは声に出すと約 45 秒です。たったの 45 秒です。パウロが神に語りかけ、今日の私達を含め、存在する全ての教会のために祈るのに要した時間はたったそれだけでした。45 秒です。

形式
パウロがこのように祈りを見える形で表しているのを見るのは重要です。パウロが何をしているのかを理解すれば、今日の聖句全体を通して同じことが見られるだけでなく、祈る際に私達も同じことが出来るようになるでしょう。

多くの人が大きな会堂で感じることに、その造りと構造によってかもし出される静けさ、期待感、広大さ、そして畏敬の念さえもが入り混じった感覚があります。たとえ誰もいなくてもその感じはあります。正面、つまりステージが特別な場所であり、そこに行ってはいけないということがわかります。行ってはならない場所です。私が初めて TBC に来た時もそう感じました。そしてステージに上がった初めての何回かは、自分がそこに立っているということへの軽い畏怖を覚えたものです。

そういった造りによって私達の心と頭が動かされるということが興味深いと思いませんか？

楽器を演奏する時に、間違いではないと他の人にわかってもらう方法を知っていますか？和音(コード)を弾くことです。
和音は素晴らしいです。正しく奏でれば、演奏している空間の構造を演奏で現し、部屋全体をその音が満たします。音楽自体が、基盤から、下から上へと建て上げられる建物のようなものです。
その基盤は、他の全ての音を導くルート音から始まります。そしてルート音の上の第 3 音と第 5 音を同時に演奏します。ルート音を変えれば、他の音もそれに従って変化します。

12 節で、パウロはイエスへの信仰によって確信を持ち、ためらうことなく舞台に上がり、ピアノへと歩み寄り、和音を奏でます。そしてこの特定の和音が、パウロが祈っている内容そのものなのです。
パウロの祈りの音楽的な和音を聴くために、理解するために、深く掘り下げてみましょう。

14 節「このようなわけで、私は、、、御父の前に、膝をかがめて祈ります。」

パウロは「このようなわけで」と書き始めます。このようなわけで、とはその背後に何かがあることを意味します。パウロの理由の背後にあるのは、世界中の人々が遮られるものなく神に近付けるようにするというのは神の御計画だったということです。もはや物理的に遮るものも、道徳的に遮るものも私達にはありません。

パウロが第 1 章でキリストの至高性を確立し、第 2 章でキリストにある者たちへの贖いの業を明らかにしたことを学びましたが、そのことにより私達は聖霊によって神様にアクセス出来るようになるのです。

パウロは御座に近づく特権を持ち、大胆に御座の前に進み出ることが出来ますが、ここで注目すべきは、パウロが傲慢さではなく畏敬の念をもって御座に近づいていることです。
大切なことです。だからパウロは謙遜に、ひざまずいて主に近付くのです。

次の 2 つの質問を心に留めておいてください。なぜパウロは、単に祈ることが出来るという理由だけで祈ると強調したのでしょうか。なぜパウロは、ひざまずいて祈りながら神に近付くと人々に書き送ったのでしょうか。彼がそのようなことを言う意味は何でしょう。手紙を読む人達はパウロの心の内を見ることは出来ず、パウロがひざまずいている姿も見ることは出来ないのにです。
それは手紙の読者に、神への畏敬の念とはどのようなものかを示すためでした。

今、パウロは神に語りかけているので畏敬の念をもって祈っていますが、同時に、自分が天の父に語りかけていることも知っています。

これは重要です。なぜなら、天の父に願い求めれば、他の父達のように、その願いを叶えてくださるからです。

マタイ 7:11「このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子どもには良い物を与えることを知っている。まして、天におられるあなたがたの父は、求める者に良い物をくださる。」

イエスが自らの言葉の正当性をその言葉の中で確証される方法にはいつも驚かされます。私達のような罪深い者さえ、求める者に与える方法を知っているのです。

15 節でパウロは、私達が父なる神にこれほど近付くことが出来る理由がなぜ真実であるのかを私達に保証します。

15 節「天と地にあって家族と呼ばれているあらゆるものの源である御父…」

聖書の訳によっては「それぞれの家族」と書いてあり、地上の人々のグループ間に何か区分があるように聞こえるかもしれません。しかし、2 章 14 節で神が 2 つのものを 1 つにしたとあり、2 章 15 節には神がご自分において 2 つのものを 1 人の新しい人に造り変えたと述べられ、さらに 2 章 19 節には私達が神の家族(単数形)の一員であると記されていることから、「1 つの家族」が正しいと私は考えます。

そしてこれは、パウロがユダヤ人と異邦人が今や共に神の 1 つの家族と見なされていることを確認していること、またなぜ私達が神を、私達が必要とするものを何でも与えようとしてくださる父として近付くことが出来るのかという意味で大切です。
他人の子に自分の名前を与える父親がいるでしょうか。
神の子として、あなたは神の名によって呼ばれており、これがイエス・キリストにあるあなたの新しい、真のアイデンティティです。まさにキリストが神に名によって呼ばれたようにです。

「私は、もはや世にはいません。彼らは世におりますが、私は御もとに参ります。聖なる父よ、私に与えてくださった御名によって彼らを守ってください。私たちのように、彼らも一つとなるためです。」ヨハネ 17:11

そして、自分が神の名字を持っている者であること、自分が何者であるかを知ることは、自分に何が許され、何が許されていないかを理解する上で最も重要です。

数ヶ月前、仕事から帰宅した時のことです。家に入ると誰もいませんでした。でもリビングに入ると、近所に住む 5 歳くらいの男の子がそこに座っていました。一人でです。なぜそこにいるのだろうと思い、少し怖くなりました。妻の安奈と娘を呼びましたが、返事がありませんでした。「一体何が起きてるんだ。なぜこの子がここにいるんだ」と考えました。その子はたった五歳でしたが、私の脳内では「侵入者警報！」が鳴り響いていました。

幸い数分後に別の部屋におもちゃを取りに行っていた娘が現れました。妻もたまたまその瞬間外に出ていただけでした。近所の人が緊急でどこかに行かなければならなかったため、これが最善の選択肢だったと説明してくれました。我が家は子供達が危険な時に逃げ込める「駆け込み家」安全な家なのです。

しかし、ここがポイントです。私の子供たちは自由に私の家に入ることが出来ますが、他の子供たちは出来ません。

神はこの区別をここでしています。しかしそれだけではありません。私達はそこに入り、私達が与えてもらったものを受け取ることが出来るのです。

ではどうでしょう。私達は同じように神に近付いているでしょうか。私達はキリストにあって神の名字を与えてもらい、自分がどのような者にされたかを理解しているでしょうか。繰り返し与えられるそういった約束を信じていますか。
フィリピ 4:19「私の神は、ご自分の栄光の富に応じて、キリスト・イエスにあって、あなたがたに必要なものをすべて満たしてくださいます。」

聖書には、私達が神の子として神のもとに行き、必要なものは何でも求めることが出来るとあります。そして父として、神はその必要が神の聖なる計画に沿っている時、喜んでそれを与えてくださいます。しかし、この聖句の重要な点は、私達がこのように神に近付くということです。

そこでパウロはこう言います…16 節「どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めてくださいますように。17 節 あなたがたの信仰によって、キリストがあなたがたの心の内に住んでくださいますように。あなたがたが」

16 節から 19 節にかけてのパウロの祈りの核心部分には、ギリシャ語で三つの「ヒナ」節が見られます。それはパウロが「そうすれば…これが起こるように」祈っていることを意味しています。

それがパウロが祈り求める 3 つの和音であり、それが何かをみていきます。この祈りを通して、彼はエペソの教会のために、#1、#2、#3 を祈り求めます。そしてこの 3 つを祈り願うことこそが、和音を構成する要素となるのです。

残念ながら、英語の「ヒナ」節は「so that」あるいはさらに難しくなるただの「that」でつながれるため、文章の中の他の通常の「that」と区別しにくくなります。

違う訳を使うと「～が起こるように」というつなぎで使われていない「that」を除去し、和音の最初の音が何かわかります。

パウロは神に願い求めます。「16 どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めてくださいますように。17 あなたがたの信仰によって、キリストがあなたがたの心の内に住んでくださいますように。あなたがたが愛に根ざし、愛に基づく者となることによって、」

これがパウロが和音の基盤とするルート音、あるいは基調です。そしてこのルート音が、彼がこれから積み上げていく次の 2 つの和音を導くのです。注目すべきは、パウロの祈りが読む人達の力や能力についてではなく、むしろキリストがどこででも彼らといてくださるようにと向けられている点です。
キリストが住んでくださる場所をみてください。彼らの心の内です。

でもこう思われるかもしれません。私は信じているからキリストはすでに私の心の内におられる。パウロは心の内にいるのが誰か、すなわち聖霊がいると説明しています。つまりキリストがあなたの内に生きているので力が聖霊から与えられているということです。

パウロが手紙を読む人に求めているのは、神の聖霊による超自然的な力によってキリストのように生きる力なのです。

パウロはここで「何をするかという問題」ではなく「力の問題」を解決するために祈っているのです。キリストの弟子のように生きたいなら、そのための力が必要です。

17 節「愛に根ざし、愛に基づく」
これは最初の音と 2 番目の音をつなぐ橋のような役割を果たしています。パウロが再び愛について語り、クリスチャンがその愛に根ざしていることを、パウロの作る和音の一部として語っていることに注目してください。「愛に根ざし、愛に基づく」ことは自分で行うものではなく、すでにあなたのために成し遂げられたことなのです。

パウロはこう言います。あなたには信仰があり、聖霊がおられ、キリストはあなたの内に住むことが出来る…しかし、あなたの人生にキリストのための十分な場所はありますか。
この灰色の領域はあなたの行いではありません。それは行うための信仰なのです。

ここで皆さんに信仰上のチェックをしていただきたいのです。皆さんに不快な自己点検の問いを投げかけなければなりません。皆さんはこの信仰をお持ちでしょうか。

こうお答えになるかもしれません。「キリストのように生きる力なんて私にはない！」しかし答えは、そのように生きる力にあるのではありません。答えは、あなたの信仰がそれを実現させるのです。

これは大切な区別です。
善い行いをすることが井戸から水を汲むことだとします。あなたは小さな紙コップを持ってそこに座っています。それで何が出来るというのでしょうか。あなたは他の人達がボウルやバケツを持って来るのを見ます。ご自身もそのように成熟したいとぜひ願ってください。

ですから、そう出来るように、自分の力が増すよう祈ってください。あなたのコップが、ボウルやバケツ、あるいは水のタンクへと変わるよう祈りましょう。

善い行いがより簡単になるよう祈ってください。神の愛を運ぶための力の器はより大きいものが必要だからです！

パウロの祈りにも見られるようにこれは私達の信仰の問題です。
あなたもこれが欲しいですか？そうでもないなら

パウロのこの素晴らしい祈りに注目してください。
「18 すべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどのものかを悟り、19 人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができ、」

このヒナ節も見づらいので、パウロの祈りを言い換えてみます。
それゆえ（hina）、あなたと全てのクリスチャンがキリストの愛を把握出来るように。なぜならそれは単なる知識を超えるもので、それよりももっと大きいからです。

さて、この次の（～出来るようにという）ヒナの祈りのセットは、和音にするなら第 3 音になります。ピアノで中指が弾くかもしれないあの音です。ここでパウロがしていることに注目してください。

何が起きているのでしょうか。パウロの祈りは何についてなのでしょう 。わかりますか。

パウロは再び、力について祈り求めています！
それは三次元的な空間の中で何かを保持する力です。彼はキリストの愛の「広さ、長さ、高さ、深さ」と言います。

なぜ四次元がここで語られているのに私が三次元と言ったのか不思議に思っておられるかもしれません。

古代において、三次元的な力は深みを加えると、下へ進むことを意味しました。それは y 軸で言うなら負の方向でした。x 軸の左右は理解されていましたし、高さも同様でした。しかし、高さの負の方向は、特にそれが地面の中に続くという意味で、異なる性質を持つように思われていました。

地は汚れた場所と見なされ、聖なる神が行くべき場所ではありませんでした。しかしパウロは、キリストがそこに入り、死を打ち破ったことを知っていたのです。

イエスの愛は空間のあらゆる次元に浸透しています。主はそれを増し加え、全てにおいてあなたを満たしてくださいます。
ヨブ記 11:7-9 で筆者はこう言います。「[7:] あなたは神を究め、見通すことができるか。全能者を極みまで見通すことができるか。[8:] 天の高みについて、あなたは何ができるか。陰府の深さについて、あなたは何を知りうるか。[9:] それを測れば、地平よりも長く海よりも広い。」

ツォファルはヨブに、これらのどれも出来ないでしょうという意味でこのことを言いました。「神はあなたには大きすぎるのだ、ヨブよ。神を理解しようとするのは諦めるんだ」

これは今も真実です。前の節で言われているように、信仰を持たない者にとって、神を理解することは不可能です。パウロが言っているのは、キリストにおいては、「神はあなたにとって大きすぎる」ということはないのです。でも実際神様はその通りの方です。神はあらゆる知識を超越しておられるのです。そしてあなたにはその神様が与えられているのです。

しかし、パウロが祈っているのは、そのように神様のところに行けるようになる中で、手紙を読む人達がキリストの愛を行う力を持つことなのです。

さて、ヨブ記で先程言われていたことをパウロのこの言葉と対比させてみると、次のように言えるでしょう。
- 神の愛を探し求めることは出来ますか。はい、キリストにあって出来ます。
- 彼の愛の限界がわかりますか。はい、キリストにあってわかります。
- 彼の愛は天よりも高く、陰府よりも深いことをあなたは知ることが出来ますか。はい、キリストにあって出来ます。

私達は皆、愛を感じたいと願っています。そして、イエスを通して与えられる神の愛ほど純粋な愛はありません。
しかし、私達の頭は神の愛の大きさを到底理解できません。19 節前半、知識を超えたものを知るということ。これが問題なのです。
神の愛を感じられない時、私達がよくすることは何でしょう。私達は神から逃げ出します。

これはパウロがここで祈っていることの正反対です。パウロは「神のところへ行きなさい」と言っているのです。

落ち込んで気分が沈んでいる時、神に祈りますか。
あなたの祈りは「神様は私を愛しています」ですか。それとも「神よ、あなたはどこにおられるのですか。」でしょうか。それとも、あなたの祈りは「神よ、あなたの愛を理解させてください。そこにあることは分かっているのに、どうしても感じられないのです」でしょうか。

違いがわかりますか。

理解が不足する時には混乱や疑いさえ生まれます。神の愛が確かにあったとしても、あなたの想像とは違っているのです。

パウロは手紙を読む人達が苦難を経験することを知っており、私達もそうであることを知っているのです。
祈りの中で、神のもとへ行きましょう。

パウロの時代の古代人たちは 3 つのことに執着していました。まず権力と知恵に執着していました。彼らは「力だけあって知恵がない」ことが破滅を招くことを知っていたのです。

また彼らは神聖なものにも執着し、自分自身が神のようになることさえも追い求めました。
19 節 b「神の満ち溢れるものすべてに向かって満たされますように。」
これまでパウロが私達の力と理解力のために祈るのをみてきました。
イエス・キリストにより救われたことによる私達への影響は、いくつかのレベルで現れます。第一に個人のレベルで起こります。次に共同体のレベル、すなわち新しい人達、つまり教会において起こります。

そしてパウロはこの祈りの中に両方を入れています。この聖書箇所で「あなた」と書かれている箇所は全て複数形になっています。

しかしパウロが 16 節で「内なる人」、17 節であなたがたの「心」という時には個人に訴えかけています。
それは一人ひとりの身体のことであり、一人ひとりが神の宮であり、一人ひとりが神のための神殿を造っているのです。それほどのものを神は必要としているのです。神は一人ひとりの神殿によって構成される神殿を求めておられるのです。

イエスは言います。私の父の家には住まいがたくさんある。
その住まいにいるのは誰でしょうか。あなたです。私達です。

神の住まいは聖なる場所です。そしてパウロが祈っているのは、私達がこのように成熟し、すなわち聖なる者となり、主が私達を通して現れてくださる準備が整うことです。

だから最終目標は、どの時代においても聖徒たちが神の愛と聖さを現すことなのです。

パウロは、私達がキリストのように強くあり、キリストのような考え方を持って、神が聖であるように、聖なる生き方をするよう望んでいます。

これが 5 番目の音で、5 番目の指を置く場所です。パウロが取り組んできた完全な和音を作るための 3 和音はこれで完成します。

パウロの祈りはこのように満ちており、調和して響き渡ることで、その祈りはさらに力強いものとなります。

全ての祈りが 3 和音である必要があるでしょうか。そんなことはありません。しかしパウロは祈りの達人です。

マーティン・ロイドジョンズ博士はこう言いました。「人生におけるあなたの不幸の大半は、自分自身に語りかける代わりに、自分自身に耳を傾けているからである」
良い考え方ですよね。でも私はこれに付け加えたいです。
「人生における不幸の大半は、新しくされた自分や神に語りかける代わりに、昔の自分やこの世の中の声に耳を傾けているからである。」

キリストにあって、私達は新しい考え方が与えられました。キリストにあって、私達は神の御座に行くことが出来ます。

しかし祈りの中で私達はそこに行っているでしょうか。どれぐらいの頻度で神の御座に行っているでしょうか。そうするには祈りが必要です。

あなたの祈りは、イエスやパウロの祈りを手本としているでしょうか。それともこの世で習ったように祈っているでしょうか。

使徒達も祈り方を知らなかったので、イエスに祈り方を教えてほしいとお願いしました。同じ質問を神様にして、答えを神の御言葉の中に探しましょう。

そして今日私達がここから学べることは、まさにこのパウロの祈りです。
私達がこのように祈ることが出来ますように。

まとめ
「[20] 私たちの内に働く力によって、私たちが願い、考えることすべてをはるかに超えてかなえることのできる方に、[21] 教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々にわたって、とこしえにありますように、アーメン。」
パウロは祈りを、いわゆる頌栄で締めくくっています。
これはギリシャ語の doxa(栄光)と logia(言葉)に由来し、「栄光の言葉」という意味です。

パウロは神に栄光を帰しています。しかし、祈りの最後にされたこの賛美の祈りの中でパウロが語っていることは、文字通りに受け取るなら驚くべき内容です。

パウロはこう言っているようです。私は考えていました。だから主よ、あなたにこれらのことをお願いしました。…そしてそれは起こるかもしれないし、起こらないかもしれないこともわかります。…でもそれでもいいのです。

なぜでしょうか。

パウロはイザヤ 55:9 を知っているからです。そこにはこうあります。
「天が地よりも高いように私の道はあなたがたの道より高く私の思いはあなたがたの思いより高い。」

私達の祈りは個人レベルでだけきかれているわけではありません。また私達の祈りは教会単位のレベルでだけきかれているわけでもありません。

神様は私達の祈りというオーケストラの指揮をしておられるのです。

私達の祈りはクリスチャンたちの世代を超えてきかれ続けており、それはつまり祈りが三次元的なものではなく、四次元的に機能していることを意味します。私達の理解さえも超えた領域できかれているのです。

神様が私達を黙らせなければならない時もあります。神様が私達にもっと強く、もっと大きな声で祈らせなければならない時もあります。

なぜなら、それはいつも私達自身のことというわけではないからです。

「3: 私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈しみ深い父、慰めに満ちた神がほめたたえられますように。4: 神は、どのような苦難のときにも、私たちを慰めてくださるので、私たちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。」コリント二 1:3-4

私達は皆、信仰上でつながっています。土地や民族を超えてだけでなく、教会の中でだけでなく、新しい人として、あらゆる世代が時を超えてつながっています。

これがあなたの祈りが持つ力の大きさです。

パウロのように、祈りが力に満ちたものでありますように。祈りが全知の神の力と約束に根ざしたものであることを私達は知っています。

あなたの経験する苦難は決して無駄にはなりません。それは全て神の栄光のために用いられます。

「私は神の祭壇へとわが喜びなる神へと近づき琴を奏でて、あなたをたたえます。神よ、わが神よ。」詩編 43:4

私達皆にとっての答えは、ただ神様のもとに行くことなのです。

神様は私達の力の源です。神様こそが私達に理解を与えてくださる方です。イエス様は私達を神様へと導く道です。

もしあなたが人生で迷い、生きる道を見出せずにいるなら、ぜひイエス・キリストのもとに来てください。

イエスは道であり、真理であり、命です。イエスを通してでなければ、だれも神のもとに行くことは出来ません。

罪の赦しを信じ、キリストが死に打ち勝たれた力を信じてください。そうすることで生きるのです。永遠の命を得ることが出来ます。

「38: …死も命も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、39: 高いものも深いものも、他のどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から私たちを引き離すことはできないのです。」(ローマ 8:38-39)

扉は開いています。あなたは神様のところへ行きますか。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール:cc@tokyobaptist.org
もしくは:https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
(毎週届くメールニュース)
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://t-b-c.us/sg4825jp

★クラス 402
キリストの伝え方
11 月 23 日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 まで修了した、TBCメンバーの方

★クラス 301
賜物発見
1 月 18 日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 201 まで修了した、TBCメンバーの方

全クラス申し込み: https://t-b-c.us/classes